

午後 試験

問 1

問 1 では、アーンドバリューマネジメント（EVM）による進捗管理について、プロジェクトの総コストの予測（EAC）や各種の指標を分析して適切な対策を行うことができるかについて出題した。

設問 1(1)は、工程による出来高の計上方法の違いについて設定が妥当な理由を問う設問であり、設問 1(2)は、計上方法に潜在する問題点を指摘させる設問であった。どちらも正答率は高かった。

設問 2(1)は、二つのチームが逆転した解答もあったが、一部指標の取り違いが原因と思われる。

設問 3 は、EAC に基づいて解答することを要求していたにもかかわらず、CPI や SPI について記述している解答が目立った。EAC の意味を理解した上で分析する必要があった。

設問 4(1)では、設問 2(1)と同様に AC、EV、PV といった指標の意味を取り違えている解答が散見された。これらは EVM の大切な指標であるのでしっかりと理解して、数値の変化からプロジェクトの状況を的確に分析・評価できることが望ましい。

問 2

問 2 では、設計・開発の途中で、新たな機能のシステム化対応が発生した場合に、既存の開発スケジュールや体制などへの影響を見極め、変更の影響を極力小さくする対策や、プロジェクトを確実に推進するための関連部門との情報共有などについて出題した。設問 1 では、定期案件の外部設計は終了し内部設計を開始しているので、定期案件の外部設計要員についての作業調整は必要ない状態であるが、設問の時点が開発上のどの工程であるかを取り違えた解答が見受けられた。解答に際しては、時点をよく意識してもらいたい。

設問 1(2)は、正答率が高かったが、引き続き関連部門と情報共有しながら、取り得る施策を多角的に検討し、最良の策を導くことを心掛けてほしい。

設問 3(1)は、正答率が高かった。一部に、開発の方法で規模を削減する案の解答が見受けられたが、C 課長は企画と運用を担当する部門に所属しており、実現する機能の範囲や、発生する運用面の制約の視点からの調整を行う必要があることを理解してほしい。

問 3

問 3 では、ステークホルダとのコミュニケーション、プロジェクト計画の見直しなどについて出題した。プロジェクト計画の見直しに関する設問 1 や、設問 3(2)、(3)の正答率は高かったが、ステークホルダとのコミュニケーションに関する設問 2(1)、(2)、設問 3(4)の正答率は低かった。ステークホルダとのコミュニケーションは、情報システム開発プロジェクトのプロジェクトマネージャにとって、最も重要な能力の一つであるので、ぜひ身に付けるよう心掛けてほしい。

設問 2(1)は、“要件定義作業を J 社設計要員が行う”という解答が多かった。状況設定から要件定義のドキュメント作成が遅れている状況を理解し、その部分を J 社が体制面で支援することが必要であることを理解してほしい。

設問 2(2)は、“仕様を決定する”という解答が多かった。この状況では営業部門と保守部門の要求の優先度を調整できる権限者が求められていることを理解してほしい。

設問 3(4)は、J 社と D 社間の契約変更の観点での解答が多かった。顧客のプロジェクトメンバも上位マネジメントへの報告をする責任を課せられていること、したがって経営会議への説明の根拠を求められていることを理解してほしい。

問 4

問 4 では、小型汎用機で稼働する部門システムを、大型汎用機で稼働する基幹システムに統合・移行するプロジェクトについて出題した。部門システムの利用者への影響の極小化、及び移行後の円滑な保守の実現を目標として、分析ツールを有効に活用するとともに、十分な品質を確保して効率的に移行を行うための留意点については、おおむね正しく理解されていた。

設問 1(1)は、2 段階で開発を行うことにした背景となるリスクを問うたが、設問の趣旨を理解し、2 段階での開発を行うことによるメリットを踏まえて、真のリスクが何であるかをプロジェクトマネージャとして一歩踏み込んで考えてもらいたい。

設問 3(1)は、“業務運用面での問題がないことの確認”のように、システムの利用者がテストに参加することの意義を解答してもらいたかったが、“出力結果の確認”や“現行機能保証”という解答が目立った。プロジェクトの各局面で関係部門の協力を得ることの重要性をよく理解するように努めてもらいたい。